

平成24年度 学校評価総括表

五條市立五條小学校

教 育 目 標		「生きる力」の理念を継承し、知・徳・体の調和のとれた人間性豊かで心身共にたくましい児童を育成する。						総合評価
運 営 方 針		豊かな心・自律的な生活態度を養うとともに、なかまと共に主体的に学習する子を育てる。						B
23年度の成果と課題		本年度の重点目標			具 体 的 目 標			
ときめきタイムや基礎基本の時間、コミュニケーション能力を高める取組をより一層充実させる。 あいさつの推進、温かい心の交流、規範意識の向上、安全意識の育成を図り、だれもが安心して生活できる集団をつくる。教育のプロとしての力量を高める研修を推進する。保護者・地域との信頼関係を深めるため積極的な情報交流に努める。		豊かな心を育成するため、感性や集中力を高める工夫を行う。			あいさつの励行。心に響く道徳教育・読書活動の推進。規範意識を高める。			
		児童の確かな学力の向上をめざし、学習内容や指導方法の改善を行う。			基礎的な知識・技能の定着。自ら進んで学ぶ力を育むための学習。			
		命を大切にし、自ら進んで運動に親しむ態度を育成する。			体育学習を中心に様々な運動に興味を持たせる。生活習慣を見直し改善する。食育の推進を図る。			
		教育環境の改善のため、家庭、地域社会との連携を深める。			保護者や地域社会との情報交換。保幼小中の連携強化。			
		児童の可能性を信じ、絶えず伸ばそうとする教職員集団を作る。			計画的・継続的に研修を推進する。互いに高め合える教職員集団を作る。			
評価項目	具体的目標 (評価小項目)	具体的方策・評価指標		自己評価結果		成果と課題(評価結果の分析)	改善方策等	学校関係者評価(結果・分析)及び改善方策
教育課程 学習指導	基礎的な知識・技能の定着を図る。	ときめきタイム・基礎基本の時間の充実を図る。	B	B	何をもちて定着・充実と言えるか職員の共通理解が必要。 個に応じて系統立てた内容を指導することが必要。時間の捻出。 児童会、委員会活動での工夫が相乗効果を生んでいる。 授業の中に話し合い場面をもっと設定することが必要。 道徳の時間を工夫し、学級経営に生かすことが必要。 五夢りんチャレンジ参加者増加。体育活動への意欲付けができた。	評価指標の見直し。気になる子個別シートの活用。 児童が自主的に活動する手だての工夫。集会や委員会での発表の機会の充実。 心に響く道徳の授業づくりと学校独自の体育的活動の検討。	○特色ある学校づくりに向けて ・先生方が自己評価されたことや、アドバイザーの先生方が診断されたことをもとに、これまでの取組のさらなる充実、課題の克服に取り組んでほしい。 ・あれもこれもと網羅するのではなく、中心的な取組をもっと焦点化してみてはどうか。それを立体的な構想図に表し、全職員が一丸となった取組を行ってほしい。 ・客観的な評価が可能な目標を設定することが必要。 ・五條市の先進校となるような教育実践に期待する。 ○さまざまなアンケートについて ・その年度だけでなく、年度ごとの結果を比較して、分析や評価をすることも大切。	
		個に応じた指導など、指導方法を工夫する。	B					
	コミュニケーション能力の育成・向上に努める。	英語学習・集会など、人前で話す機会を多くする。	B	B				
		互いの考えを認め合い、深め合える授業を行う。	B					
	豊かな心・たくましい体を育てる。	道徳の時間を中心に、心に響く指導を行う。 楽しい体育学習を通し、運動が好きな子を増やす。	B B	B				
生徒指導	あいさつ運動を推進する。	すべての教職員が積極的に声をかける。	A	A	校内では成果が見られるが、校外では進んで挨拶ができていない。 児童会が推進する活動を実施。意欲付けにつながった。 大半の児童には規範意識が身についてきた。課題の残る児童への働きかけが課題。 職員間の情報交換・指導統一の効果が出てきている。 少しずつ定着してきている。意識高揚のための方法の工夫。 個別の対応を含めた関係機関との連携の強化。	地域や保護者、児童会と連携したオアシス運動のさらなる推進。 個に応じた指導と問題の共有化。教師間の連携の継続。 学校独自での生活調べの実施。保護者への啓発活動。	○いじめ根絶に向けて ・子どもたちと接する時間を多くして、早期発見、早期対応、早期解決を図ること。 ・個人やいじめの内容を個々に把握できるようなアンケートが必要。 ○地域との連携 ・地域としても、もっと学校に協力していきたい。そのためにも情報提供をお願いしたい。 ・家庭環境等の情報交換や教育内容の交流等、小中連携を強化し、小中一体となった教育を推進することが大切。 ○その他 ・特設クラブでの頑張り、子どもの自信につながっている。 ・先生方が忙しすぎるのではないかな。事務的なことを簡素化するなど、子どもと接する時間を多くする工夫が必要。	
		児童会、委員会活動を積極的に推進する。	A					
	問題行動を予防するための取組をする。	様々な場を通じて、規範意識の向上を図る。	B	B				
		職員間の情報交換を図る。	B					
	家庭や関係諸機関との連携を図る。	家庭と連携し基本的生活習慣の定着を図る。 関係機関と連携し情報交換を図る。	B B	B				
人権教育・特別支援教育	一人一人を大切にする取組を進める。	人権学習を積み重ね、互いに認め合う学級をつくる。	B	B	人権感覚を高める働きかけの工夫。 共通理解後の具体的な手だてを話し合うことが必要。 職員間の連携。「障がい」全般についての指導計画。 出合いを大切にしたい人権集会や、講演会の検討。	出会いから学ぶ人権集会や人権講演会の検討。保護者を含めた人権意識の向上。		
		各学期、気になる子についての共通理解を行い、指導に生かす。	B					
		個別の指導計画を作成し、個に応じた指導を行う。	B					
		人権教育講演会等保護者への啓発を図る。	B					
組織運営	校長のリーダーシップのもとに、各分掌が役割と責任を果たす。	校長の学校経営方針を周知する。	B	B	校長のリーダーシップのもと組織としての学校運営が課題。 学校運営委員会で意思統一ができた。時間短縮が課題。 積極的に意見交流ができる職場づくりが必要。 様々な場面で服務規程を自覚した行動が必要。	運営委員会や各種部会の見直しによるさらなる充実と連携。気軽に話ができる職場の雰囲気づくり。		
		学校運営委員会を開き、学校運営に生かす。	B					
		悩み等を気軽に話し合える職場をつくる。	B					
		教職員一人一人が服務規律を遵守する。	B					
安全管理	学校事故を未然に防ぐための取組を進める。	各学期、計画的に避難訓練を実施する。	A	B	安全に対する意識を高められるような指導を実施。 安全点検項目、実施状況に關しての再確認が必要。 危機管理マニュアルの見直し、再確認ができた。	危機管理マニュアルのさらなる周知徹底。安全点検表の作成。		
		安全点検を計画的に実施し、改善する。	B					
		危機管理マニュアルを理解し、適切に対処する。	B					
研 修	計画的、継続的に研修を推進する。	研修組織を確立し、各学年、計画的に授業研修を行う。	A	B	テーマに沿って、様々なアプローチによる授業研修が実施できた。 安心して校外研修に出かけられる校内体制の充実。	研修参加体制の構築。 研修の方向性の確認。		
		校外の研修にも参加し、教員としての資質を高める。	C					
保護者・地域住民との連携	双方向の情報交換を積極的に進める。	家庭訪問等で保護者との意思の疎通を図る。	B	B	保護者との信頼関係を築くための家庭訪問の継続。 PTAと連携した行事を実施することができた。 通信等で、学校の情報を伝えることができた。	学校通信の発行による保護者への啓発。PTA活動への呼びかけ。家庭訪問の充実。		
		PTA活動を計画的に推進し、保護者と連携を図る。	B					
		学校通信等を通して、保護者・地域との連携を図る。	B					